2026 年 10 月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のてがたんは 11 月 14 日（土）で、テーマは「くらべてみよう鳥の体・翼編」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は 11 月 1 日（日）です。

10 月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 → 山階鳥類研究所前 → 手賀沼遊歩道 → けやき広場 → 水生植物園 → けやき広場で解散
- 観察日時／天気：2026 年 10 月 10 日（土）10：00～12：00 ／晴れ
- 参加人数：18 名（大人 15 名、子ども 3 名）
- 市民スタッフ：8 名（**石原直子**、伊東茂子、北村章子、**小泉伸夫**、弘實さと子、古澤紀元、松田由美子、湯瀬一栄）
- 鳥博職員：1 名（脇水徳之）

― 観察した生き物の記録 ―

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：カルガモ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ、ヤマガラ（声）／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス（声）／エナガ科：エナガ（声）／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／ホオジロ科：ホオジロ
家禽や外来種：ドバト（ハト科）

【その他】ヌマガエル／ウスカワマイマイ／アシナガグモ、ナガコガネグモ、ジョロウグモ、コゲチャオニグモ、ドヨウオニグモ、ビジョオニグモ、コクサグモ、ハナグモ、コモリグモの仲間

【昆虫】トンボ目：シオカラトンボ、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ／バッタ目：オンブバッタ、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ハラヒシバッタ、クビキリギス、カネタタキ、キンヒバリ、クサヒバリ、シバスズ、マダラスズ、エンマコオロギ、オカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ／カマキリ目：コカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ／カメムシ目：キマダラカメムシ、マルカメムシ、ヨコヅナサシガメ（幼虫）、アオバハゴロモ、チュウゴクアミガサハゴロモ／チョウ目：モンシロチョウ、キタキチョウ、ジャコウアゲハ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、コチャバネセセリ、ウスベニスジヒメシャク、ツマジロエダシャク、フタツメオオシロヒメシャク、アオイラガ（幼虫）、ハマキガの仲間（幼虫）、トビイロスズメ（幼虫）、ヒトリガの仲間（幼虫）／コウチュウ目：キノコヒゲナガゾウムシ、ヤナギルリハムシ、マメコガネ、ナナホシテントウ、ヒメアカホシテントウ／ハエ目：キゴシハナアブ、ホソヒラタアブ、ニクバエの仲間／ハチ目：オオスズメバチ、コガタスズメバチ、ハグロハバチ、ムツバセイボウ、ハシブトシリアゲアリ

【菌類】オオチリメンタケ、カワウソタケ、カワラタケ、チャミダレアミタケ、ネンドタケ、ヒイロタケ、サルノコシカケの仲間

【木の実】カバノキ科：ハンノキ／ブナ科：コナラ、シラカシ、マテバシイ／タデ科：イシミカワ／クスノキ科：シロダモ／ツヅラフジ科：アオツヅラフジ／バラ科：トキワサンザシ／ウリ科：カラスウリ／ミズキ科：ハナミズキ／カキノキ科：カキノキ／ヤマノイモ科：ヤマノイモ

【木の花】ミソハギ科：サルスベリ／モクセイ科：キンモクセイ／スイカズラ科：ハナツクバネウツギ

【草の花】アサ科：カナムグラ／タデ科：オオイヌタデ、イヌタデ、ヤブタデ／アブラナ科：イヌガラシ、スカシタゴボウ／マメ科：クサネム、ムラサキツメクサ、シロツメクサ／カタバミ科:カタバミ、オッタチカタバミ／トウダイグサ科:エノキグサ／アカバナ科:ヒレタゴボウ／シソ科：トウバナ／キク科：アメリカセンダングサ、コセンダングサ、アメリカタカサブロウ、ヒメムカシヨモギ、ハキダメギク、ハハコグサ、チチコグサ、ブタナ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、オオオナモミ、オニタビラコ／キジカクシ科：コヤブラン／ユリ科：ホトトギス／ヒガンバナ科：ヒガンバナ、ニラ、タマスダレ／ツユクサ科：ツユクサ／イネ科：メヒシバ、イヌビエ、オヒシバ、ススキ、スズメノヒエ、チカラシバ、コツブキンエノコロ、キンエノコロ、セイバンモロコシ、ヌカキビ、メリケンカルカヤ／カヤツリグサ科：ヒメクグ、ヤマイ

2026年 10月の観察アルバム



今回のテーマは「『毒』と『薬』は使いよう」でした。身近な自然には、毒を持つ植物やきのこ、昆虫が多く生息しています。生き物が持つ毒の中には、皮のなめしや染色、化粧品や薬などに使われる成分もあります。今回は、毒にも薬にもなる成分を使った、昔の人々の生活の知恵を学びました。





今月の案内人

小泉 伸夫　　石原 直子



❶園芸植物のホトトギス。鳥のホトトギスの腹部に似た模様から名づけられた。



❷コガタスズメバチの死骸。死後も集合フェロモンを出すことがあるので注意。

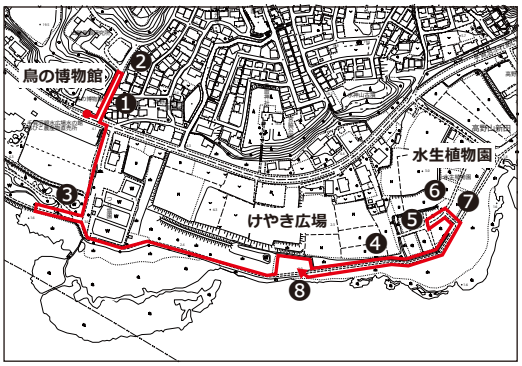


❸ハンノキの球果。渋み成分のタンニンが樹皮にも含まれ、染料に使われる。



❹キノコヒゲナガゾウムシ。集団でサルノコシカケの仲間をかじっていた。

歩いたルートと観察した生き物





❺広場を飛んでいたナツアカネ。後ろのメスが水場や地面に卵を産み付ける。



❻広場で高鳴きをしていたモズ。他の鳥の鳴きまねで縄張りをアピールする。



❼トビイロスズメの幼虫。毒はなく、尾の付け根のトゲや頭を振って身を守る。



❽赤・青・緑の金属光沢が美しいムツバセイボウ。ドロバチの仲間に寄生する。

今月の鳥　植物の毒に対応する鳥たち

エゴノキの実の果皮には、エゴサポニンと呼ばれる毒成分が含まれています。ヤマガラやシジュウカラは、くちばしで皮を剥がし、種を取り出して食べます。

ナンテンやトキワサンザシの赤い実にも、青酸配糖体の毒が含まれますが、ヒヨドリやツグミは一度に少しずつ実を食べることで、毒の影響を軽減しています。

その一方で、ナンテンが外来種のアメリカでは、ヒメレンジャクが一度に大量の実を食べて中毒死した例があります（Woldemeskel & Styer, 2010）。植物の毒への対応は、鳥の体のつくりや経験学習との関係性が伺えます。



博物館横にあるエゴノキの実



ヤマガラは足で実をはさんで種を取り出す